

2025 年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

2025 JUA/EU Resident Programme 参加報告

坂本みき (愛媛大)

この度、JUA/EU Resident Programmeとして、2025年3月21～24日にスペインのマドリードで開催されたthe 40th Annual EAU Congress (EAU25)に参加させて頂きました。このプログラムについては2016年に参加された先輩である渡辺隆太先生(愛媛大学)よりお聞きしたことがありましたが、私にはきっと縁のない世界だと思っておりましたので参加できると決まった時のワクワクは大変なものでした。

本年より両学会のご厚意で、学会開催前にHospital tourとしてHospital Clínico Universitario San Carlosへ訪問させて頂くことができました。San Carlosは国内で最初にロボット手術を導入した病院であるそうで、朝から3件のロボット手術を見学させて頂きました。手術の間にResidentの先生と一緒にEAUガイドラインの改訂点やHoLEPについてミニレクチャーを受けました。またスタッフ構成として、女性医師の比率が非常に多く、Residentの約8割が女性医師であったことに驚きました。働きやすい環境整備が整っているため欧州では泌尿器科は男女問わず大人気だと教えてもらいました。そしてReal MadridのホームであるSantiago Bernabeu stadiumのレストランでSan Carlosの皆さんとサッカーフィールドを見ながらディナーを頂きました。さすが『太陽の沈まない国』、深夜まで熱いディベートが交わされました。

また22日にはYUROpartyへも参加し、アルカラ門が

見える会場で各国のResidentと交流することができました。同年代であるにも関わらず彼らは自身の目指すところが明確で、それに向けどのような経験が必要か理解している点がとても印象的でした。そうしたキャリア形成をサポートするため多様なプログラムや支援制度がEAUによって整備されているそうです。私は日々の業務をこなす中で目の前のタスクに追われていましたが、泌尿器科医として将来どのような形で社会に貢献したいのか、キャリアを中長期的な視点で考える重要性を再認識する機会となりました。

EAU Congressで最新の知見に触れることができたことはもちろん、世界のUrologistと交流できたこと、横のつながりが築けたことは私の泌尿器科人生の大きな転機です。今回一緒に参加した梶村光貴先生(自治医科大学とちぎ子ども医療センター)、篠原知樹先生(福岡大学)とは現地で初めてお会いしましたが、とても人当たりがよく、まるで初めてではないように感じました。今後も国内外様々な学会でぜひご一緒させて頂きたいです。

最後となりますが、このような素敵なプログラムに参加させていただく貴重な機会を与えてくださいました、国際委員会の富田善彦委員長、三宅秀明先生、Hospital Clínico San Carlos, Gómez Rivas先生、JUA・EAU両学会関係者の皆様、そして御推薦頂きました雑賀隆史教授に心より御礼申し上げます。



写真1 Hospital Clínico Universitario San Carlosの皆さんと



写真2 YUROpartyにて